

社会福祉法人イエス団賀川記念館 機関紙『ボランティア』



ボランティア Volunteer

VOL.134

ボランティア 第134号



発行 2024年3月25日
発行所 社会福祉法人イエス団賀川記念館
発行者 馬場一郎

社会福祉法人イエス団賀川記念館
〒651-0076 神戸市中央区吾妻通5-2-20
Tel 078-221-3627 Fax 078-221-0810
E-mail office@core100.net
HP http://core100.net



賛助会費・寄付金のお願ひ

賀川記念館の事業は皆様によって支えられています。

賛助会費・寄付金を下さった方には寄附控除制度が適用されます。

賛助会費

【個人】 一口 1,000円より

【団体】 一口 10,000円より

寄付金

何円からでも可能

振込先

【ゆうちょ銀行】 口座番号：01140-8-3721 社会福祉法人イエス団賀川記念館

賀川記念館は以下の事業を行っています。

- ①地域福祉事業（天国屋カフェ／外国にルーツをもつ子どものための学習支援教室「はいず」／その他）
- ②福祉教育事業（ミュージアム／総合研究所）

友愛幼稚園の歴史を辿る



賀川記念館は友愛幼稚園（現在幼保連携型認定こども園友愛幼稚園）とともにこれまでの歴史を歩んで来ました。友愛幼稚園の働き無くして、賀川記念館の働きはありません。今回は、友愛幼稚園の歴史を振り返ってみたいと思います。

■賀川の活動

賀川豊彦が神戸葺合地区に移り住んだのは一九〇九年二月二十四日のことでした。賀川は仲間達とともに「救霊団（後のイエス団）」を組織し、北本町六丁目に借りた家を拠点に活動をしていました。賀川は活動開始当初から、特に子どもたちに関心を寄せ、子どもたちへの活動を行なっています。日曜学校を行い、宗教教育を成すとともに、地域の子どもたちに関わっていくことを意識し活動していったことが、弟子の武内勝の著作からも読み取れます。

賀川たちは、空き地を利用して一緒に遊んだり、夏には子どもたちを武庫川や明石まで連れていきました。可能な限り郊外へ遠足に行き、できるだけ自然に親しむ機会を設けたという賀川の想いが記録に残っています。

また賀川は乳幼児の保育の必要性を痛感していたと言います。子どもを預かることによって、父母の就労

支援や不衛生な環境から幼児を守るこの意識をしていたのだということです。賀川は当初から福祉と教育の両面から幼児教育の必要性を痛感していたそうです。

その後、イエス団の活動は、賀川がアメリカ留学中に、事業を任されていた武内勝を中心に、事業を拡大し、現在の葺合警察署の場所に拠点を増やすこととなりました。また、一九二九年には国道及び改良住宅の建築に伴い、北本町六丁目と吾妻通五丁目の拠点を統合することとなり、現在の葺合警察署の場所に新建築したイエス団本部で教会、友愛救済所をつくりセツルメント活動を行っていきました。

その後、一九三五年に善隣幼稚園（バプテストの宣教師たちが設立）が譲渡されると同時に、現在の賀川記念館の場所に移転をすることとなりました。

現在の場所に移転してから今日まで（戦時中には空襲によって建物が消失し、長田区に拠点を移していた）、賀川豊彦らの精神や活動が引き継がれ、この地域のために多くの活動を展開していく事となりました。

■善隣幼稚園…友愛幼稚園前史

友愛幼稚園の前史はアメリカのバプテスト・ミッションが開設した善

隣幼稚園にあります。

G・R・トムソンが神戸に来日したのは一八八九年のことでした。G・R・トムソンはメソジスト派の宣教師でしたが、バプテスト派の宣教師だったロバート・A・トムソンと結婚し、バプテスト派の宣教師として来日しました。G・R・トムソンはコネチカット州の師範学校で幼児教育科の科長をしていたミス・ミンギンスの元で保育を専攻し、アメリカ博愛主義的幼稚園運動の影響を強く受けた人でした。トムソンは日本に来て伝道活動をする中で、小野柄地区の幼い子どもたちが、日中放置され、しかも危険な工場付近で遊んでいる光景を目にし、この子らのために幼稚園を開こうと決意したといえます。明治時代、神戸で最も盛んな産業はマッチ製造と製茶でした。これらの商品は当時の代表的な輸出品でしたが、この二つの産業は低所得階層が従事した一番主なものであつたといえます。また、これらは作業が簡易なため女性の労働者も多かったといわれています。

一八九四年にトムソンは二階建の民家を借り受け、子どもたちを集めて保育をはじめました。神戸市葺合区で貧しい子どもたちを対象に保育を始め、翌一八九五年二月一日には、正式に「善隣幼稚園」としてスタートしました。園の運営に関わる資金の多くは、バプテスト・ミッシヨンの援助でした。このミッシヨンにより維持費や人件費が賄われました。そのほか、教材費は月五銭の保育料と有志の献金や、トムソンの私費などで賄われたといえます。しかし、当時は幼稚園教育についての理解もなかなかされず、保護者には子どもの保育について考える余地もなかったようです。ただ、「子どもと遊び、子どもの世話をしてくれる外国人がいる」という噂を聞きつけ、乳児を背負いながら園へくる子どもがいました。

乳児は看護師経験を持つ保育者に保育させ、幼児は保育士が保育を行うように努力をしたといわれています。すると徐々に地域の人たちにも保育の理解が持たれるようになり、入園希望者は増加していったと記録に残っています。

■善隣幼稚園の保育

最初の職員は園長トムソンと主任保育士（※当時は保母と言った）母吉川まつ、小寺という婦人伝道師の三人でしたが、その後高野、竹中という二人の保育者が加わりました。この吉川まつ（一八七七〜一九五九年。姫路生まれ。のちに結婚し青木姓となる）は、横浜捜真女学校というミッシヨンスクールの出身で、兄の影響を受けて社会福祉に関心を持

ち、キリスト教に入信しました。英語もよくできたため、トムソンの片腕となり善隣幼稚園の働きを支えました。ちなみに、兄は神戸バプテスト教会牧師の吉川亀であり、神戸孤児院（現在の神戸真生塾）の設立にあたった人物の一人で

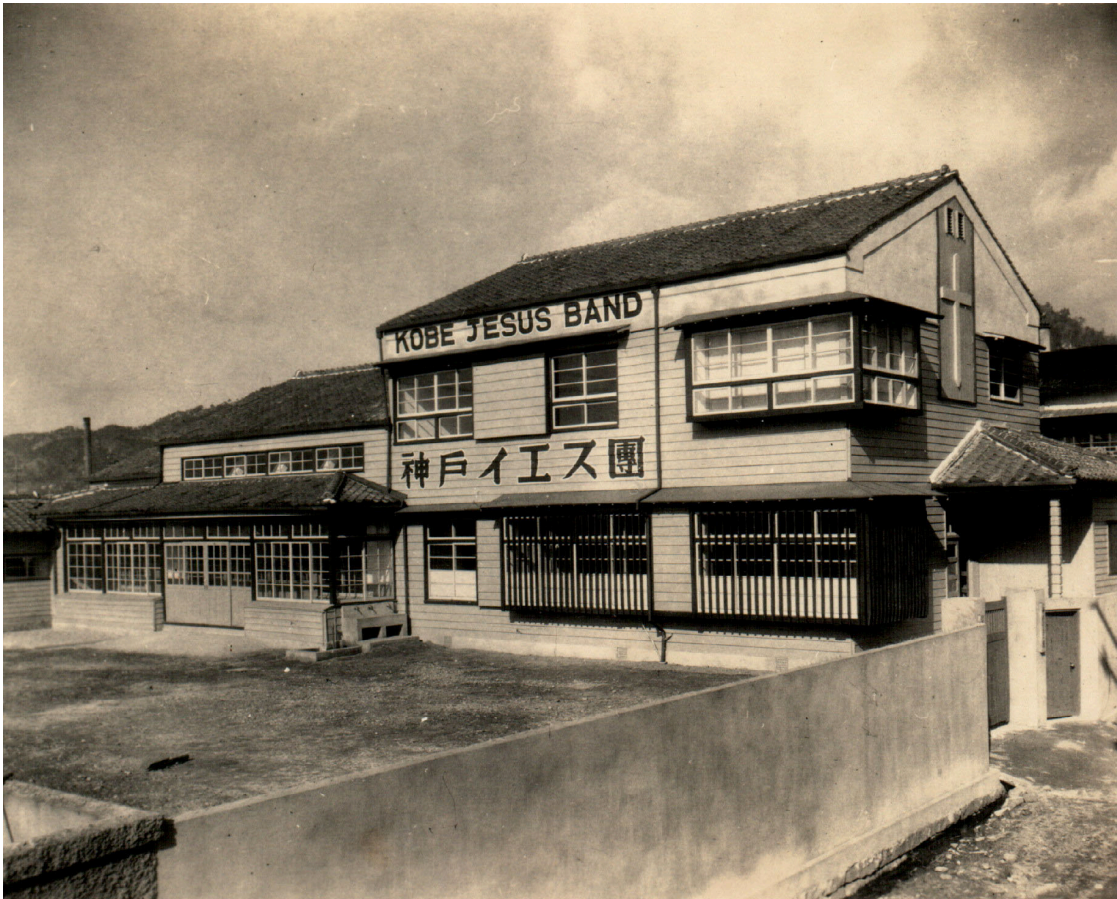
吉川まつは、のちに善隣幼稚園が午前と午後の二部に分かれてからも、終始一貫して貧しい子どもの保育に全力を尽くし、「小野の聖者」と呼ばれるほどでした。また頌栄保母伝習所（現在の頌栄保育学院）創設者のA・L・ハウと親しく、善隣幼稚園の保育者の多くを頌栄保母伝習所から迎え入れていたと言います。

民家を借りて出発した善隣幼稚園は、一九〇二年にアメリカバプテスト・ミッシヨンの援助で、磯上五丁目二階建ての園舎を建築し、場所を移動しました。一階は大きな遊戯室と三つの保育室、それに事務室、用務員室、台所があり、二階は保母室と食堂がありました。この新築と同時に、文部省が同年に定めた幼稚園規定に準じ「善隣幼稚園」として認可を受けることとなります。定員六〇名の幼稚園でしたが、定員以上の希望者



善隣幼稚園で。向かって左から3人目が賀川豊彦

がおり、入園を待機する子どももいたといわれています。磯上通に移転した善隣幼稚園でしたが、入園する子どもたちに変化がありました。磯上通りは三宮に近く、園は商店街の子ども達でしめられるようになり、当初対象とした貧しい地域の子どもたちは次第に来な



神戸イエス団の建物（1949年）。友愛幼稚園の園舎、園庭として使用された。

くなつてしまつたといふのです。トムソンらはこのような状況に心を痛め、一九〇九年には再び吾妻通五丁目に新園舎を建て移転しました。こうして貧しい地域の子どもたちも再び入園するようになったといま

す。
しかし、幼稚園は一日四時間保育を原則としていたので、午前中で終わる保育では、この地区の保育希望は満たされなかつたと言います。これを受けて一九一一年には午後の部

を二八名の園児とともに開始しました。これは地域の実情に合わせたもので、当時の幼稚園としては画期的なものでした。

園舎も当時としては画期的だったと言います。下には広々とした保育室が三つあり、一〇〇

人を収容できる遊戯室がありました。

一九一三年には午前部の部は一〇〇名定員で、保育時間は午前九時から昼食後の一二時半までとしました。また、午後の部は定員五〇名として午後一時半から四時まででした。午後の部は主任の吉川まつが専任職員となり、午前の部の保育者が週三日交代で保育にあたりました。のちに一九二〇年代半ばごろからは、それぞれ専任の保育者が保育にあたり、たつていくことになりました。

しかしながら、次第にトムソンの高齢化、移転、パプテストミッシェンとの関係などから困難な事態が生じ、一九三三年にはパプテ

ストミッシェンがトムソンを帰国させました。それと同時に援助も打ち切られてしまいました。

この状況により善隣幼稚園理事会は午後の部を廃止することで困難を切り抜けようとなりました。そして、午前の部は葺合パプテスト教会（現在の日本基督教団神戸聖愛教会）附属幼稚園として葺合区国香通6丁目に園舎を新築し、移転して幼稚園として再出発することになりました。

■友愛幼稚園

当時、午後の部の主任をしていた阿南静江（二八九四年生まれ。日ノ本女学校で保育を学び、キリスト者となる。その後一九二一年に母校の宣教師の紹介で善隣幼稚園、友愛幼稚園で保育者として勤める。）は、午後の部を廃園にして子どもを見捨てるのが耐えきれず、午前の部の主任をしていた木村なつと相談して持続する方法を模索し始めました。

まず二人は当時七〇円もらっていた月給を自ら辞退し、五〇円にしました。午後の部の保育士には時に辞任や転任をしてもらい、専任は阿南ひとりとなりました（ただ、実際の保育は午前の部から応援を求めたようです）。また友人や知人から献金を集め、二年間はなんとか持続することができました。一九三四年には午前の部を国香通に移転する事と

ボランティアのご案内

当館の活動は皆様のご支援により成り立っております。賛助会費や寄付金によるご支援はもとより、多くのボランティアさんのおかげいただいております。感謝申し上げます。

現在「天国屋カフェでの運営スタッフ」、「はいずの学習支援ボランティア」「ミュージアムの軽作業」などはボランティアさんにお手伝いいただいております。常時ご支援やボランティアを募集しております。

お気軽にお問い合わせください。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



神戸の施設の人たちと

なったことを機に、午後の部を市に移管してもらおうと交渉しました。残念ながらこれは実現しませんでした。

この経緯をどこからか伝え聞いた賀川豊彦は、阿南を尋ね「新川のことは私の責任です。私が経営の責任をもつから、あなたは続けてやってもらえないでしょうか」と懇願した。

といえます。賀川は神戸神学校の学生であった時に、よく善隣幼稚園を訪問していて、そして吉川まつの影響を受けています。この吉川まつの影響があり、この地域に住み込んだとも言われているほどです。一九三五年、善隣幼稚園理事会はトムソン記念ホールとして、引き続き保育事業に

使用するという条件で、建物、設備、教具教材の一切を賀川豊彦の経営するイエス団に無償譲渡しました。また理事会は主任保育者として阿南を推薦したといえます。

こうして、「友愛幼稚園」として吾妻通五丁目目で保育を始める事となりました。園名は武内勝の発案でした。「友愛」は賀川が活動していた「友愛会」と、一九一八年に設立した「イエス団友愛救済所」から取ったもので、キリスト教の友愛の精神にならった幼児教育機関という趣旨を込めたものでした。

また「幼児園」は教育と福祉の両方の性格を持った幼児教育機関であることを表すためでした。今日では幼保一体化が当たり前になっていますが、賀川たちはこの時代から教育と福祉の連携を考えていたと言えます。

■友愛幼稚園の保育

友愛幼稚園の初代園長は賀川豊彦が務めました（代理として武内勝がたち、多忙だった賀川の代わりに園を取り仕切った）。保育は朝の九時から午後二時まででした。保護者からは長時間の保育を望まれましたが、体制上難しかしかったといわれています。

友愛幼稚園が発足した当時、園児は非常に貧しい家庭の子どもたちだ

けでした。「生活に追われて家庭のしつけが欠けていたので、それだけの保育は苦勞が多かった」と記録が残っています。次第に、善隣幼稚園に行かせていた家庭のうち、友愛幼稚園の保育が良いとの噂を聞きつけ、友愛幼稚園に入園させるようになった保護者も増えていったようです。

保育の内容は、主任であった阿南が善隣幼稚園時代から勤務していた影響も大きく、善隣幼稚園のカリキュラム（教育課程）が引き継がれていました。また、午前の部と午後の部とは同じカリキュラムで保育をしていたと言います。

カリキュラムの内容としては、午前の部の主任が頌栄保母伝習所出身の木村なつであったのと、そのほかの保育者も頌栄保母伝習所出身者が多かったため、自然と頌栄色の強い保育だったといえます。

その中でも、午後の部にはより生活指導や衛生面での配慮があり、プログラムにも融通性があったと記録には記されています。特に基本的な生活習慣をしっかりと身につけられるようにプログラムが組まれていました。また衛生面にも多くの配慮があり、登園すると入り口に設けられた水道口で手を洗わせ、食事後もそこで口をすすがせたと記録されています。また、トラコーマ（慢性クラミ

ジア結膜炎）の子こが多かったので、芝ヤへ（友愛救済所医師、賀川の義妹）が週に二回来園し、治療に当たったといえます。

一方で、『神戸の保育史』によれば、「賀川豊彦の幼児教育思想は十分に活かされなかった」とも記されています。これは、賀川は他の面で忙しく、直接指導できなかったためだと考えられています。例えば、賀川が大切にしていた自然に触れる保育（自然教案）についても、賀川の主張を友愛幼稚園の保育には十分に活かすことができなかったようです。

残念ながら、一九四五年に友愛幼稚園は戦災により全焼しており、当時の資料は残されていません。そのため当時の保育の様子を十分に知ることはできず、賀川の想いがどこまで保育に活かされたのかは分かりません。ただ、武内勝をはじめ、多くの人が友愛幼稚園の歴史と保育を作ってきたことは事実であると思います。代々引き継がれ、現在の友愛幼稚園の保育を作りあげているのだと思います。賀川豊彦やその仲間達の思いを引き継ぎ、現在も友愛幼稚園の保育は続いています。賀川記念館には、日々子どもたちの遊ぶ元気な声があふれています。

次号以降で、現在の友愛幼稚園の様子をお伝えしたいと思っています。



天国屋ナイトカフェ開催！

二月一六日（金）に「天国屋ナイトカフェ」を開催しました。新型コロナウイルスの影響により、二〇二〇年から中止せざるを得ませんでした。今回は実に四年ぶりの開催となりました。

久しぶりの開催だったので、どのくらいの方がきてくださるか心配でしたが、予想を超えて多くの方に来ていただきました。

長らく中止していたため運営側も不安を抱えつつ準備を進めました。料理数も前よりも少なめに用意しましたので、予想以上の来場者に数が足りたのか、ハラハラしました。（完売でした！ありがとうございます！）

以前は音楽のコンサートなども企画していましたが、今回は、飛び込み参加OKのステージ（ストリートピアノ方式）にしました。こちら



もどれだけの方が参加してくださるのかわからず不安でしたが、多くの方がステージに出演してくださり、楽しい時間を持つことができました。フルートとピアノの演奏、ギター弾き語り（途中からは来場者のリクエストを聞いてくださり歌声喫茶のようになっていました）、音楽アンサンブル：などたくさんの方がご出演くださいました。また、次回以降に「私も参加したい」というありがたいリクエストもいただきました。次回以降はどのような形になるかわかりませんが、皆様のご協力をいただき、楽しいナイトカフェにしたいと思っております。どうぞ皆様ご協力ください。よろしくお願いします。

次回は四月一九日を予定しています。



2024年4月より天国屋カフェの価格を下記の通り変更いたします。これまで価格維持のための努力を続けてまいりましたが、原材料であるコーヒー豆などの高騰により従来の価格を維持することが困難となり、下記の金額に変更させていただきます。なお、ランチは当面の間、価格を変更せずに営業いたします。

皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

- ・ランチセット 500円
- ・きまぐれカレー 400円
- ・飲み物（コーヒー・紅茶・ジュース） 300円
- ・飲み物（アフターランチ） 200円
- ・ケーキ単品 200円
- ・ケーキセット 450円
- ・ケーキセット（アフターランチ） 400円

※赤字が価格の変更をしたものです。

コア100 賀川 関東大震災100年記念講演会開催

講演される藤沢真理子先生



二月十七日(土)にコア100賀川主催による講演会を開催しました。今年、関東大震災より100年ということもあり、「関東大震災一〇〇年記念講演会」として愛知東邦大学の藤沢真理子教授に「賀川豊彦と関東大震災く子どもの栄養支援」と題してご講演いただきました。

当日は三六名の方が参加してくださいました。関東大震災での支援の様子から、賀川豊彦が行った子どもたちに対する栄養支援についてのお話をいただきました。

その後、二〇二三年度「賀川賞」授与式を行いました。今年度は、チ

ムやんだくない様と、福井康代様が受賞されました。おめでとうございます。

受賞者の方をご紹介いたします。チームやんだくない様は、東日本大震災を契機に発足。阪神淡路大震災からの経験を生かし、東北で被災者の心のケアや生活支援活動を行うとともに、コア100では、各地区が開くイベント等に、出展(東北の手作り品の販売)するなど、被災地とコア100こうべをつなぐ取り組みを積極的に行ってこられました。

さらに、被害が増加する消費者トラブルについては、「コアサークル」を立ち上げて、コア100こうべのさまざまな場面で消費者被害防止に向けた

学習・啓発活動を繰り返し広げておられます。活動内容を膨らませながら、長期に渡り、組合員・市民のくらしの向上に貢献してこられました。

福井康代様は、二〇〇二年の兵庫県ユニセフ協会設立以来、事務局長として活躍され、退任されました。

出会いと交流を通して、子どもの命と権利を守るユニセフ活動への理解と支援を広げることを目指して長年取り組まれてきました。パワフルでしなやかで、そして寛大な心をもち、かかわる人のやる気を後押し活躍する場を提供されてきました。苦しい環境に置かれていた多様な方々に寄り添い、国際理解を深める機会を提供し、知る機会、伝える機会をつくるためにも孤軍奮闘されてきました。若い人から年配の方まで年代問わず、福井さんを慕い、励まされユニセフの活動に触れ、影響を受け、世界に羽ばたいた



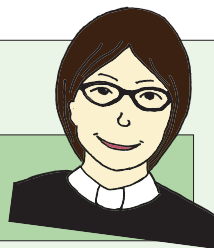
講演会・研修会のご案内

当館では研修会及び講演会などのご依頼をお受けいたします。

◎当館の研修は、「賀川豊彦の思想と実践」、「賀川記念館(イエス団)における社会福祉実践」、「現代社会における福祉課題」、「人権」など、ご希望に合わせた研修を実施させていただいております。

これまで、生活協同組合、労働組合、共済の各団体をはじめ、人権団体、大学などの研修・授業にもお使いいただいております。お気軽にお声かけください。

上内鏡子牧師の聖書の話



「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんな大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」

ヨハネによる福音書 6章 9節

今

回の聖句は、イエスの弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレの言葉だ。

イエスと十二弟子は山に登ったが、イエスの癒しの奇跡を目撃した群衆が彼らの後を追ってきた。聖書はその数を男だけで五千人だと記している。その人々の腹を満たすためにどこでパンを手に入れるかという難題がイエスから弟子たちに与えられた。山の上に五千人を満足させるだけのパンを売っている店屋はないだろう。ましてや山の中でパンを焼くことはできない。もう一人の弟子フィリポは二〇〇デナリ分のパンがあっても足りないと言っている。これは労働者二〇〇日分の給料に当たる。

この時に申し出たのがアンデレだった。二〇〇デナリ分のパンでも足りないのに、子どもが持っていた、たった五つのパンと二匹の魚を差し出したのだ。ひよっとすると、精一杯差し出した子どもも気持ちを有耶無耶にできなかつたのかもしれない。どうせ「役に立たないもの」として期待もしていなかったけれども、ほかに良い答えも見つからず、困り果てた末の彼の心のうちを推し量ることができるところが、イエスはその「役に立たないもの」を受け取った。人々をその場に座らせ、パンを取り魚を取って、感謝の祈りを唱え、人々に分け与えた。人々は満腹し、なお残ったパン屑は十二のカゴにいっぱいになったと聖書は語る。

今の時代、人は即座に計算して答えを出したがる。そしてその答えは役に立つか立たないかで判断しがちだ。「どうぞ役に立たないもの」と諦めていないだろうか。だから、イエスの行為は、役に立たないものなど何もないと主張しているかのようだ。たとえパン屑でさえも捨てずに集められたなら、十二のカゴにいっぱいになるのだ。「コスパ」や「タイパ」が叫ばれる現代に、パン五つと魚二匹をあまりにも非現実的な話だと決めつけることができるだろうか。(お)

とっておき

酸辣湯

天国屋カフェのレシピ

<材料> (4人分の材料)

- しめじ 1
- エノキ 1
- 白ネギ 1本
- 豚バラ 150g
- 絹こし豆腐半丁

<作り方>

- ① 鍋に 800ccの水を入れ、沸いたら豆腐以外の材料を入れる。
- ② 鶏ガラスープ、酢、しょうゆ、塩コショウ、ごま油、ラー油を適宜入れ、豆腐を入れる。
- ③ 水溶き片栗粉を入れ、溶き卵 1個も入れる。ほかの野菜を入れてもよい。
- ④ 最後に青ネギを散らす。



名前にあるように、酸っぱくて辛い(辣い)スープですが、お好みの辛さ、酸っぱさにしてください。レシピに書いてある野菜だけではなく、他の野菜を入れても美味しいと思います。最近取り入れたメニューですが、好評でした。天国屋カフェでは酸っぱさ、辛さともに控えめのものを提供していますので、苦手な方にも食べていただけます。(い)

◎編集後記

友愛幼稚園は開設当初から「想い」によって支えられている。困っている家庭、子どもを支え、地域のニーズを受けながら柔軟に子どもたちを受け入れてきた。日本の中でも先駆的な活動の一つだったと言えるだろう。▼賀川豊彦は子どもに対する想いを人一倍持っていた。だからこそ、友愛幼稚園をはじめ、様々な子どもための施設をつくった。また「子どもの権利」に関していち早く言及している(一九二六年)。賀川の子どもの想いを見つめ直したい。▼二〇二三年に「こどもまんなか」を合言葉としてこども家庭庁が発足したが、一〇〇年前の賀川らの働きは、まさに「こどもまんなか」を体現している働きなのかもしれない。これからの未来を担う子どもを第一に考えた働きがなされていたといえよう。▼賀川記念館は現在も常に友愛幼稚園と共に歩みを進めている。長い歴史を持つ中で、「賀川記念館」友愛幼稚園」と感じている地域の方も多くおられるだろう。これからも地域のニーズに応え、柔軟に地域の子どもの育ちを支えていきたい。(お)